

# 秋田の土地改良

# 10

2010・OCT



みどり  
水土里ネット秋田

目次

「水土里ネット稲川」平成22年度21創造運動大賞を受賞! …… 2	平成22年度換地委員等実務研修会 …… 9
農業の将来展望を拓く秋田県総決起集会 …… 3	特集:農業水利施設内の「ゴミ」問題(シリーズ③) …… 10
国、国会議員への要請活動を実施 …… 4	平成22年度役職員講習会日程 …… 12
平成22年度「水土里の郷 わくわく探訪」 …… 5	秋田県農業集落排水連絡協議会総会 …… 13
「食料・環境・ふるさとを考えるフォーラム2010」&地球人会議運営委員会 …… 6	農村総合整備センター運営委員会開催、連合会日誌 …… 14
2010秋田県中山間ふるさと・水と土現地見学会 …… 8	合併予備調印式、会員だより、第2回理事会 …… 15
基幹水利施設管理技術者育成支援事業現場指導研修を県内各地で開催 …… 9	インフォメーション …… 16

## 21世紀土地改良区創造運動

## 「水土里ネット稲川」が21創造運動大賞に決定!!

## — 本県から3年ぶりの受賞 —



9月6日(月)、砂防会館3階全土連会議室(東京都)で「平成22年度21世紀土地改良区創造運動大賞中央選考委員会」が開催され、今年度の21創造運動大賞に水土里ネット稲川(湯沢市)が決定した。

大賞の選考方法は、都道府県水土里ネットによる第一次選考、農政局ブロック単位による地方大賞並びに中央推薦地区(2地区)の決定、中央選考委員会による21創造運動大賞の審査・決定となっている。

当日は、地方選考会より推薦された13水土里ネットが、それぞれ10分間のプレゼンテーションの後に、約5分間、選考委員からの質問に回答するという形式で行われた。東北地方選考会(7月8日開催)推薦の水土里ネット稲川は3番目にプレゼンテーションを行い、3名の選考委員から水土里ネットの基幹施設となっている「与惣右エ門堰」を題材にした紙芝居や運動の基本理念など6項目について質問を受けていた。

その結果、本県の水土里ネット稲川を含め、全国の8水土里ネットが栄えある21創造運動大賞を受賞した。なお、表彰式は10月26日に開催される第33回全国土地改良大会長崎大会の席上で行われることになっている。

## 中央選考委員会選考結果

## ■水土里ネット稲川 地域活動プランナー

本年度の21創造運動大賞の候補地区として推薦された運動において、水土里ネット稲川の運動は、全国の模範となる、特に優れた運動との評価がなされました。

よって、大賞として決定するとともに、運動の特徴をふまえて副題として【地域活動プランナー】を付させていただきました。今回の受賞を糧として、今後の運動の更なる発展を期待いたします。

## ■選考理由

- ①小学生を対象としたどろんこ学校をため池で開催し、水利施設と水源林との関わりを知ってもらう活動を行っている。
- ②出前授業及び施設見学会を開催し、農業体験や新米の試食会など開催内容の工夫、改善を図っている。
- ③小学校の施設見学会でゴミ捨て防止標語コンクールを開催し、水を地域の宝として守ろうとの気運を高めている。
- ④地域の宝を地域で守るという運動の意味が明確で地域への密着性がある。また、運動の波及性があり触発効果がみられる。



開会宣言を行う本会・高貝会長

# 農業の将来展望を拓く 秋田県総決起集会

農業関係 4 団体が共同で主催

## ■永田町へ届け農業者の声 —「ガンバロー」—

10月18日(月)、土地改良関係予算の大幅削減や米価下落など本県農業を取り巻く厳しい状況を受け、「農業の将来展望を拓く秋田県総決起集会」が秋田市文化会館で開催された。生産者やJA、土地改良関係者など約1,000人が出席し、生産現場の声を国政に反映させようと、米の需給調整対策の早期実現や基本政策の確立と万全な予算確保などを求める集会決議を採択した。

この集会は、例年JA中央会が単独で開催していたが、農政の転換期を迎えていることや今年の米の不作を受け、各農業政策を充実させようとJA秋田中央会、秋田県農業会議、秋田県農業共済組合連合会、秋田県土地改良事業団体連合会が初めて4団体で主催した。

集会は、本会の高貝久遠会長による開会宣言で始まり、続いて、主催者を代表しJA秋田中央会の木村一男会長が「食料自給率50%の実現に向けては整合性のある政策を国が示されなければ、農家はますます苦しい状況になる。農業者が求めるのは、農業で収益を上げることができる『経営の安定』を次世代に引き継ぐことのできる政策の確立である」と挨拶した。



決意表明を発表する佐藤理事長

決議では、米の需給調整対策の早期実現のほか、意欲ある担い手が将来にわたり希望を持ち営農活動ができる農業農村整備事業等の基本政策の確立と万全な予算確保、EPA等について国内農業・農村の振興を損なわないとする閣議決定を貫くことなどを、関係団体一体となり国に要請して行くことを満場一致で採択した。

また、来賓として出席された佐竹敬久知事や県議会議員、県選出国会議員などに対しては、◇米の計画生産や出口対策の徹底◇地域や品目ごとの価格変動に対するセーフティーネットの構築◇優良農地の確保と効率的利用の促進◇農家負担の軽減を図る農業共済関係予算の確保◇ほ場整備事業の着実な推進と水田汎用化に向けた排水対策の予算措置などを国に要請するように求めた。

さらに、主催4団体から一人ずつ決意表明が行なわれ、土地改良関係者を代表して水土里ネット子吉の佐藤信一理事長が「急激な予算削減は、食料生産を支える土地改良施設の老朽化や農業基盤の劣化の進行を進め、農業生産性の低下や災害の多発など農業の営み自体が脅かされている。このため、現下の状況を踏まえ、戸別所得補償制度の効果的発現に大きく寄与できる農業農村整備事業の着実な推進が必要であり、農業・農村が継続的に発展していくためにも本年度予算の更なる追加措置と平成23年度予算を21年度並に復活することを求める」と述べた。

最後は、本会の三澤敏行副会長によるかけ声で、出席者全員による「ガンバロー」三唱で集会を締めくくった。



主催者挨拶(木村JA秋田中央会長)

関係者約1,000人が  
参集本会・三澤副会長による  
「ガンバロー」三唱

## 国、国会議員への要請活動を実施

### 農業農村整備事業の着実な推進を

#### 東北・北海道土地連絡協議会が中央要請

東北・北海道土地改良事業団体連合会連絡協議会（会長：本会高貝久遠会長）は、国の平成22年度予算において、農業農村整備事業予算が対前年比の6割強の削減となったことから、7月28日、高貝会長をはじめ各道県土連の代表者が上京し、民主党本部や農林水産省へ「農業農村整備事業の着実な推進に向けた、平成23年度予算の確保について」の要請活動を行った。

民主党本部では、本県選出の松浦大悟副幹事長の立ち会いのもと、山根隆治筆頭副幹事長に要請が行われた。

また、農林水産省では、篠原学農林水産副大臣、井出道雄農林水産事務次官を始めとする農林水産省幹部への要請が行われた。

#### 本会が本県選出国会議員へ要請

翌29日、本会の高貝会長、黒子専務理事、池田総務企画部長が、本県選出国会議員に対し、議員会館の各事務所を訪れ、予算の大幅削減による本県農業農村整備事業の窮状を説明のうえ、要請書を手渡した。

平成22年度

## 土地改良施設管理 技術研修会が開催される！

9月13日～14日の2日間、大館市で「平成22年度土地改良施設管理技術研修会」が開催され、県内の市町村及び土地改良区の担当者など84名が参加した。

研修会では、主催者として本会の黒子専務理事が「この研修は昭和53年に、土地改良管理指導センター設置運営事業の一環としてスタートさせて以来今年で33年を数えますが、基幹水利施設（特にダム、頭首工、揚排水機場）の管理は、第1に用水を安定的に供給すること、次に施設管理が安全であること、更に予防保全対策等による施設の長寿命化を図ることなどであり、一層効率的な管理体制の構築が求められている。万全な施設管理に向け、この研修会が実り多いものとなることを期待します」と挨拶、引き続き、基幹水利ストックマネジメント事業の制度、同事業実施地区の事例発表、ゲート設備の維持管理、非補助農業基盤整備資金についてなどの講義や説明が行われた。



また、二日目は米代川筋土地改良区連合が管理する「米代頭首工」で現地研修が行われ、同連合の菅原喜博さんからの施設概要や同事業による整備補修の状況などの説明に続き、予備電気設備の研修として、停電となった場合を想定した発動発電装置の現地研修が行われた。本会職員が講師となり、実際にエンジンを稼働させながら発電装置の仕組みなどを説明、受講者はエンジン音が響く中でも興味深く説明に聞き入っていた。



水土里の郷  
わくわく  
探訪

## 14回目の「水土里の郷 わくわく探訪」 開催される!! ～農業用水のはたらきを探訪しよう～



農業用水利施設等の見学を通じて、施設の多面的機能や農業用水の働きについて理解と関心を深めてもらうために、7月24日(土)、「水土里の郷 わくわく探訪」が10年ぶりに三種町、大湊村で行われた。この「わくわく探訪」は、平成9年にスタートして今年で14回目の開催となったが、この日は秋田市の小学生とその保護者30名が参加した。

一行は、水土里ネット秋田(駐車場)での開講式を終えると、最初の探訪施設である羽根川ダム(三種町)へ向かった。現地では水土里ネット琴丘の田中理事長の歓迎挨拶に続き、牧野事務局長からダムの概要や農業用水の働きなどについて説明を受け、実際にダムに架かる吊り橋を渡り、景観を楽しみながらダムの役割に理解を深めていた。

その後、県内の土地改良施設としては特徴的な畑地かんがい施設(三種町)に向かい、はじめに八郎潟西部承水路から水をくみ上げる第1機場で、水土里ネット浜口の牧野理事長、畠山事務局長の説明を受け、灌漑の仕組みや農業用水、ポンプ施設などに関心を持ったようであった。



次に、八竜地区のメロン畑に移動し、畑の水利などについての説明やスプリンクラーの散水を見学した後、収穫体験を行い、同地区の主力品種のタカミメロンを1個ずつ摘み取った。突然のサプライズに参加者は「おいしそう」と笑顔を見せていた。

その後、大湊村に移動し、昼食をとり、大湊村干拓博物館と南部排水機場を見学し、八郎潟干拓事業の概要や歴史、大湊村が海面より低いこと、排水機場の役割などを中心に説明を受けた。メモを取りながら盛んに質問するなど、参加者の関心の高さが伺えた。



心配された天候も何とか一日持ちこたえ、見学を終えた後、参加者から「次回も是非参加したい」という声スタッフがの疲れを癒してくれた。



9月5日(土)、あきた食料・環境・ふるさとを考える地球人会議(山上信子会長)が主催するフォーラムが、秋田市文化会館小ホールで開催された。フォーラムは、地球人会議が設立された平成11年以降、毎年開催され、今年で12回目を迎えた。今年のテーマを「いっしょに考えよう！ 水土里のこと…」とし、「秋田県中山間ふるさと水と土フォーラム」(秋田県主催)、水土里ネット秋田との合同開催で行われ、約300名の参加があった。

はじめに、山上会長が「農業・農村の活性化は、良質な水・空気を生み、多様な生物を育むとともに、水源の涵養、美しい景観・伝統文化の継承、国土保全への貢献を行う。さらに、人が人らしく生きることを助け、子どもが自然に親しみ、豊かな人間性を育む。農村で農業が営まれることにより発揮される多面的機能の恩恵は、都市部に住む人を含め、全ての国民が享受しており、農業・農村を国家の基盤として将来の世代に確実に継承していくことを、農家だけの問題とせず、国民、県民の皆様と考える必要がある」と挨拶した。

## 中山間ふるさと水と土フォーラム

昨年、実施して好評を得た、ふるさとが育んだ文化や郷土芸能に触れて戴くため、羽後町の地域芸能「仙道番楽」が披露され、実演後の挨拶で保存会長の武田さんが、後継者育成のための苦労話などを語られ、参加者からの共感を得た。



## 21世紀土地改良区創造運動表彰式

秋田県知事賞の水土里ネット南旭川に対し、清野県農林水産部次長からの表彰に続き、奨励賞の水土里ネット二井田真中、特別賞の水土里ネット雄物川筋岩崎弁天地区に対し、本会高員会長からの表彰が行われた。



## 水土里の活動報告

「21 創造運動活動報告」では、知事賞を受賞した水土里ネット南旭川照井総務課長から、地元の小学校の理解を受け実施している「花壇づくり」や「施設見学会」、農地・水・環境保全向上対策の活動組織と連携をした農業用排水施設の管理活動等についての報告があり、続いて「遊休農地の再生くあきた農業体験施設」では、同体験農園運営会議の黒崎代表幹事から、都市近郊の耕作放棄地を再生した、地域住民参加型の「体験農園」活動への取組が報告された。



## わくわく探訪・感想文発表

旭川小学校4年佐藤優奈さんから、「水のみちの大切さ」と題して、「私たちが生きてゆくためには水が大切です。たくさんの人々のおかげで、いつも自由に水を使うことができます。川にごみをすてたり、水を出しっぱなしにしないよう、水を大事に考え、生活していきたい」と、次に、高清水小学校5年布川翠さんから、「水と農業のふかいかかわり」と題して、「大潟村について教わり、村を作った理由は戦後の食料不足をなくすことだとわかり、日本でも食料不足があったんだとびっくりした。4つの施設を見学して、どれも大切な役割をしており、人にとって大切な水が、農業とも深いかかわりがあることが理解できた」と、感想文の発表があり参加者から盛大な拍手が沸いた。



## 基調講演「今、地球上で何がおきているか」



フォーラムの最後は、本県仙北市西木町出身の作家西木正明さんによる「今、地球上で何がおきているか」と題した基調講演があり、西木さんが世界160カ国以上を巡った取材経験から「20世紀は、戦争の世紀であった。利権の固まりである覇権へ抵抗した国が起こした戦争に始まり、共産主義と自由主義の対立による東西戦争、そして宗教、民族の巡る戦争は現在も続いている。これらの戦争が長期化した理由は、行きがかりにこだわり、現状を変えようとしなかったことだ。地球温暖化について、科学的証明がないので根拠がないとする学者がいるが、現実には、北極氷河の崩壊、北極海の氷解、日本でも温害によって野菜が商品価値を喪失している。水の問題に関しても、赤道直下のアフリカの高山の氷河溶解による水源の将来性、旧ソ連時代に行ったかんがい事業の戦略的ミスの結果、あるいは、サハラ砂漠の拡大化に起因する、世界最大級の2つの湖の枯渇がある。これらの問題には、行きがかりを捨て、危機感を持って、みんなが出来ることから対応する必要がある」と締めて頂いた。

## 活動協力金、ありがとうございました。

地球人会議では、継続的・発展的な活動を行うためには、予算確保が今後の課題として、「フォーラム2010」の当日、「協力金」箱を設置して、ご賛同、ご協力を頂ける方に活動資金の募金をお願いしたところ、4,501円のご厚意があった。

会議では、このご厚意の募金を、会議の活動、学校教育との連携・支援活動に役立たせて頂くこととしている。

## 地球人会議 運営委員会開催!!



8月10日(火)、本会第1会議室で、「あきた食料・環境・ふるさとを考える地球人会議」の、平成22年度運営委員会が開催され、役員選任、21年度事業報告・収支決算、22年度事業計画(案)・収支予算(案)が審議され、役員選任では、高畑進氏に代わり、監事の山上信子氏が会長に選任された。

また、各議案はいずれも原案どおり可決され、特に、22年度事業計画では、9月5日(日)開催の「地球人フォーラム2010」については、本県仙北市出身の作家・西木正明氏を講師に、「今、地球で何がおきているか」を演題に基調講演して頂くことを確認した。

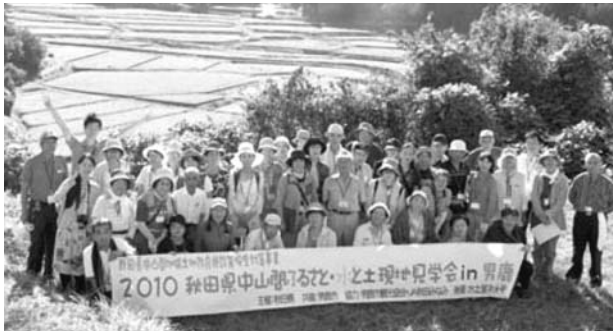
# 2010秋田県中山間ふるさと水と土 『現地見学会』in 男鹿

～男鹿の歴史の息吹を感じ、ふるさと秋田の魅力を地域で守り継ぐ活動を～

平成22年9月4日(土)、本県農山村が有する自然、景観、伝統文化・芸能、郷土食などの地域資源の魅力について、広く県民に理解と関心を深め、土地改良施設などの保全・利活用に係わる地域住民活動への参加を促進することを目的に、男鹿市において現地見学会を開催しました。

通算7回目となる今回も、80名の募集に対し120名余りの応募があるなど毎年人気の見学会となっています。

男鹿市は、入道崎、寒風山など秋田県を代表する観光地ですが、現地見学会では、滝の頭円形分水工、南部排水機場などの農業用施設、和梨の産地化、すげ笠の保存、棚田の保全など集落の取り組みの説明、なまはげ太鼓などの地域芸能の鑑賞を通じ、地元農家などとの交流を図りました。



“なまはげ大橋”から見える緩やかな曲線を描く幾何学模様が鮮やかな“安全寺の棚田”。集落の長老などから、佐竹公が進めた植林事業、集落の由来、菅江真澄の足跡などの説明がありました。一部原野化された斜面の“干枚田”をみて、棚田保全の困難さを実感するとともに、復活を望む声があがっていました。

琴川集落に古くから伝わる市指定無形文化財“琴川のすげ笠”の伝承活動に取り組む“琴川すげ笠づくり伝承同好会”による実演が行われました。会員の高齢化などから存続が危ぶまれていたなか、農家や音楽家など20～30代の若者の団体“茄子地人協会”がその保存に協力しています。会員の佐藤毅さんは大龍寺でコントラバスを披露しました。

## その他の見学場所／昼食／郷土芸能



▲南部排水機場



▲中石梨の説明を聞く参加者



▲庭園でのコントラバス演奏



▲地元若者による“なまはげ太鼓”



▲滝の頭の円形分水工



▲庭園が美しい大龍寺



▲二の目淵と戸賀湾



▲あんぱら餅汁を提供するお母さん

現地見学会の詳細は、こちらのホームページをご覧ください。

秋田県農林水産部農山村振興課 <http://pref.akita.fpd.jump/gt/html>



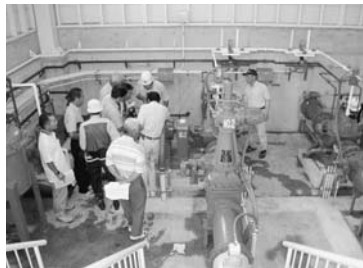
## 現場指導研修会を 県内各地で開催！

基幹水利施設管理技術者育成支援事業

7月下旬から8月上旬にかけて、県内各地で基幹水利施設管理技術者育成支援事業の現場指導研修会が開催されました。

本研修は、土地改良区の管理技術者に対して、施設の保全及び管理技術について学んでもらうもので、土地改良区の技術者育成を図ることで、基幹的水利施設の適正かつ長寿命化を目的としております。

研修は、秋田県内の4会場で



実施されており、実際に揚水機場で日常の点検方法や運転管理方法を土地連職員が土地改良区の職員に指導しま



した。主な研修内容として、揚水機の点検（異音、温度、計器類等）及び整備（グリース等）でしたが、電気設備は電気主任技術者が電気概論や計器類の確認方法などの研修を行った。参加者は真剣に聞き入っていた。

主な会場と参加状況は次のとおりです。

- 【7月27日】森吉町土地改良区（参加者21名）
- 【7月28日】男鹿市若美土地改良区（参加者19名）
- 【8月3日】秋田県雄物川筋土地改良区（参加者26名）
- 【8月4日】由利本荘市子吉土地改良区（参加者12名）

平成22年度

## 換地委員等実務研修会

9月2日、秋田テルサ（秋田市）を会場に平成22年度換地委員等実務研修会が開催され、県内で換地業務に係わる地区の換地委員や土地改良区関係者など約130名が出席した。

研修会は、事業実施中または今後予定している地区の換地委員等を主な対象とし、換地に関する基礎的知識や事業要件、換地委員等の果たす役割などについて研修するもので、水土里ネット秋田が実施している「土地改良換地等強化事業」の一環として毎年実施している。

研修は、県農林水産部及び水土里ネット秋田



の担当職員による講義、新波地区基盤整備組合（秋田市）の工藤組合長による事例発表などが行われた。会場では盛んに質疑応答が交わされたほか、参加者による研修アンケートでは様々な意見・要望等が出されており、今後予定されている研修会等に反映させていきたいと考えている。



また、今回の意見・要望等をもとに本会では、①問題解決方法等を示した「Q&A」について、次回研修会で参考図書を示しながら必要の有無を取りまとめる②各地域毎の説明会への出席依頼は速やかに対応する③実施事例及び体験談を今後も継続するなどに、今後も取り組んでいくこととしており、引き続き関係皆様のご協力をお願いすることとしている。

特集

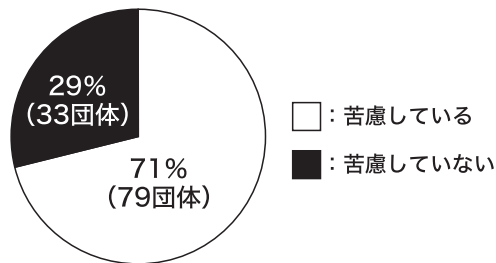
# 農業水利施設内の「ゴミ」問題

シリーズ③

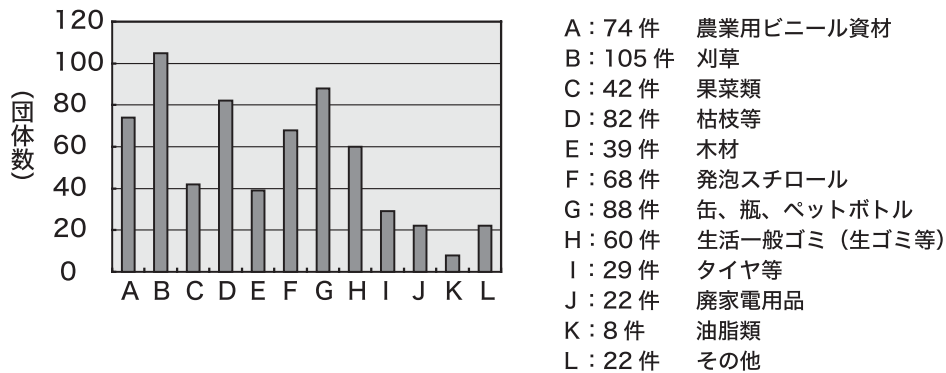
## 水土里ネットが管理する農業関連施設におけるゴミ発生状況調査結果

「秋田の土地改良」7月号(第465号)で、土地改良区が管理する農業水利施設のゴミ発生状況調査の概要を掲載しましたが、今回、調査結果がまとまりました。ゴミ処理に苦しむ水土里ネットの現状を把握!! ご協力いただいた関係者の皆様に感謝申し上げます。

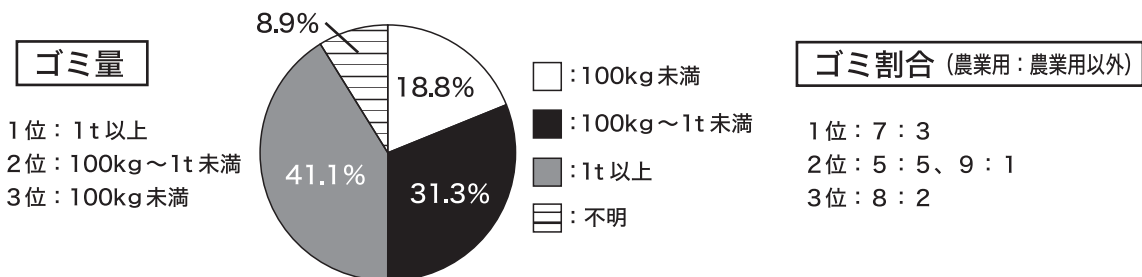
**Q1** 貴団体が管理する農業用水利施設において、浮遊ゴミ等で苦慮していますか？



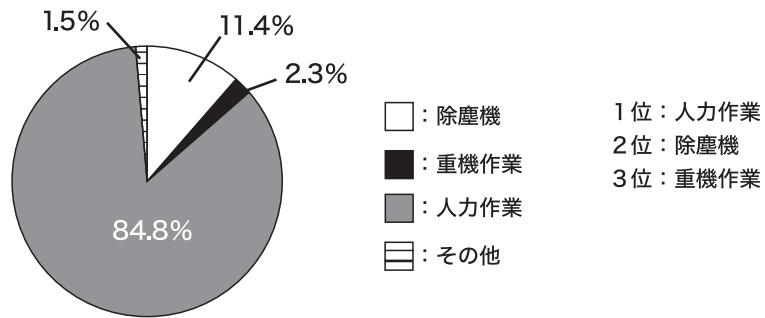
**Q2** 浮遊ゴミ等の種類は何ですか？(複数回答可)



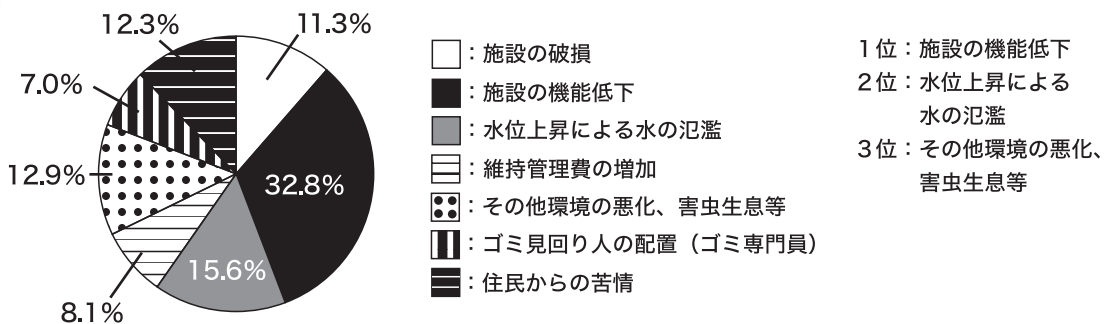
**Q3** 浮遊ゴミ等の量について教えて下さい。また、分かる範囲で結構ですので、農業用と農業用以外のゴミの割合を教えて下さい。



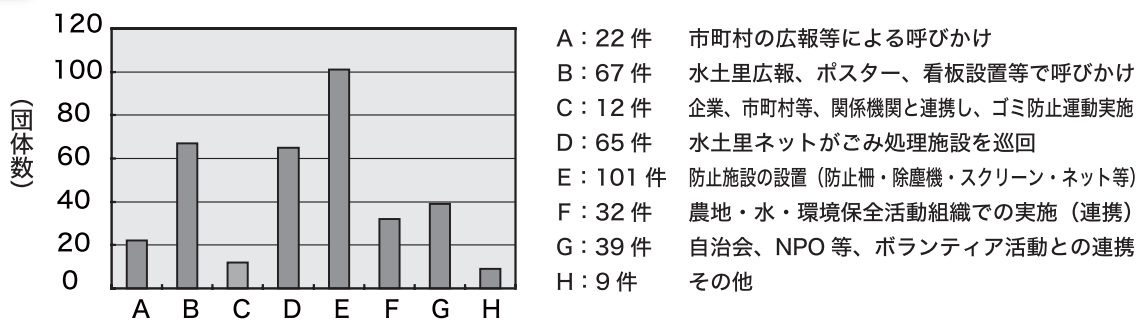
**Q4** 浮遊ゴミ等の主な除去方法は何ですか？(複数回答可)



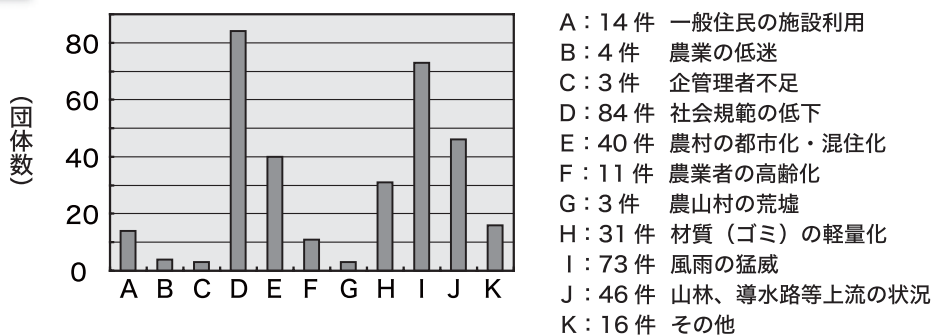
**Q5** 浮遊ゴミ等が及ぼす影響について教えてください。(複数回答可)



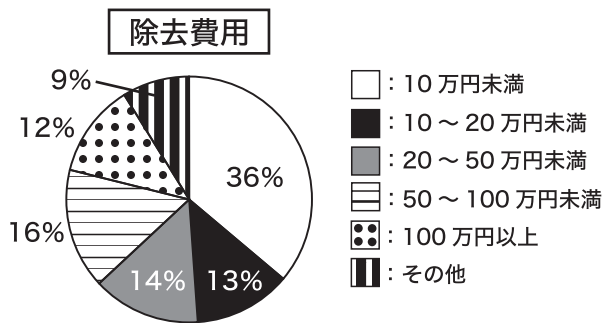
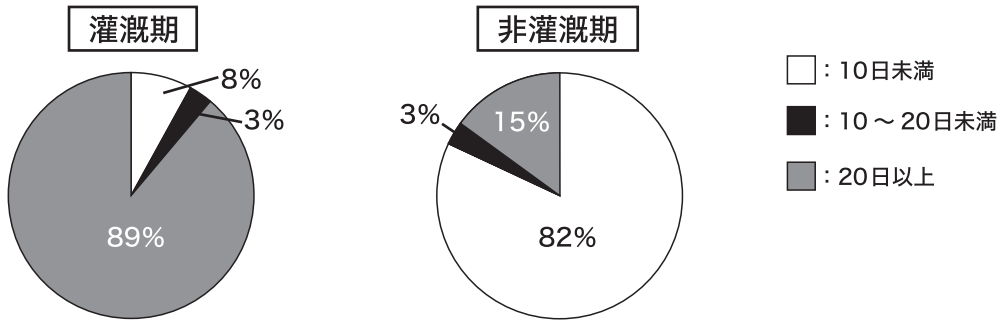
**Q6** 浮遊ゴミ等の対策方法を教えてください。(複数回答可)



**Q7** 浮遊ゴミ等の発生原因をどう考えますか？(複数回答可)



**Q8** 今年度における浮遊ゴミ等の処理について教えてください。



▼ 今後の「ゴミゼロ」実践活動の予定

- 土地改良区など関係者による検討会開催(10月26日)
- ゴミの実態調査PR資料等の作成(各種講習会に活用)11月
- 「ゴミゼロ」ポスター等の作成(会員へ配布)3月

今後ご協力  
よろしくお願いします。

(問合せ先) 総務企画部広報・渉外班 農業関連施設「ゴミ」問題担当 TEL.018-888-2712

〈平成22年度土地改良関係団体役職員講習会〉

支 部	日 程		
	1日目	2日目	開 催 場 所
鹿角・大館北秋田	11月18日(木)	11月19日(金)	鹿角市 大湯温泉「ホテル鹿角」
山 本	11月17日(水)	—	能代市 「シャインプラザ平安閣能代」
秋 田 (役 員)	11月16日(火)	11月17日(水)	秋田市 秋田温泉「秋田温泉さとみ」
秋 田 (職 員)	12月2日(木)	12月3日(金)	秋田市 秋田温泉「秋田温泉プラザ」
由 利	11月30日(火)	12月1日(水)	にかほ市 「象潟シーサイドホテル」
仙 北 (役 員)	11月25日(木)	11月26日(金)	仙北市 田沢湖高原温泉「プラザホテル山麓荘」
仙 北 (職 員)	11月9日(火)	11月10日(水)	仙北市 田沢湖高原温泉「プラザホテル山麓荘」
平 鹿	11月12日(金)	—	横手市 「松與会館」
雄 勝	11月22日(月)	—	湯沢市 「湯沢グランドホテル」

# 秋田県農業集落排水連絡協議会

## 第19回通常総会を開催

8月2日、本会第1会議室で、「秋田県農業集落排水連絡協議会第19回通常総会」が19会員（会員総数21団体、うち委任状2）の出席のもと開催されました。

総会は、栗林会長（大仙市長）を議長に、平成21年度事業報告、収入支出決算について、平成22年度事業計画（案）、分担金算出方法及び徴収の方法（案）、収入支出予算（案）について審議され、満場一致で原案のとおり決定されました。



また、役員改選が行われ、会長には5年間務められた栗林大仙市長に替わり、長谷部由利本荘市長が選任されました。栗林前会長には償還助成の復活等、任期中3回の要請活動と、協議会の円滑な運営にご尽力頂きました。

総会終了後、県建設交通部下水道課の小野課長から、「あきた循環のみず推進事業」について、県農林水産部農山村振興課の保坂課長から「“韓流ドラマ”を事例とした広報戦略について」と題して講演がありました。

講演終了後には、「平成23年度の農業集落排水事業予算の確保」について、秋田県の佐竹知事、堀井副知事、中野副知事を始め、総務部長、建設交通部長、農林水産部長、秋田県議会議長に対して要請活動を行いました。要請には、長谷部会長（由利本荘市長）、栗林理事（大仙市長）、加藤理事（八峰町長）、三浦監事（三種町長）、理事代理として小野横手市副市長、丸屋大館市建設部長、雲雀仙北市建設部長、堀部北秋田市上下水道課長が参加し、水土里ネット秋田からは黒子専務が同行しました。

## 要 請 書

農業集落排水事業の推進につきましては、日頃から格別のご高配を賜り厚くお礼を申し上げます。おかげ様で、県の支援のもと「秋田県生活排水処理整備構想」に基づき、これまで22市町村200地区で農業集落排水施設を整備しており、農業用水はもとより公共用水域の水質保全や改良に寄与するとともに、農山村地域の生活環境改善にも大きく貢献しております。

しかし、本県の農山村地域における生活排水処理の整備は今後これまで以上に中山間地域等条件不利地域の整備や既存施設の更新、機能強化等が大きな課題として残されており、引続き農業集落排水事業を計画的に実施していく必要があります。

折しも国では本年3月末、新たな食料・農業・農村基本計画を閣議決定し、「食」と「地域」の再生に向けて、食料・農業・農村政策を国家戦略として位置付け、国民全体で食料・農業・農村を支える社会を目指していくことを表明しました。一方で、国の平成22年度農業農村整備事業予算は、対前年比で約1/3に大幅な削減となったほか、農業集落排水事業は、平成22年度に新たに創設された農山漁村地域整備交付金に移行しましたが、この交付金を考慮しても予算規模は、平成21年度比で1/2程度となっております。

つきましては、これらの実情をご賢察のうえ、農業集落排水事業の平成23年度予算枠の確保について、秋田県としても国に強く要望して下さるよう特段のご配慮をお願い申し上げます。



平成22年度 **秋田県農村総合整備センター**  
**運営委員会開催される**

8月9日(月)、秋田県農村総合整備センターの平成22年度第1回運営委員会が開催されました。

委員会は、始めに三澤土地連副会長を運営委員長に選任し、その後、三澤新委員長が議長となり議事が進行され、H22年度事業計画及び収支予算などの提出議案が承認されました。

同センターが実施する「農村振興総合整備推進事業」の事業主体は、昨年度と同様、東北農政局管内の「公募」となり、7月7日に応募の後、7月22日に土地連が選定され、補助金交付決定通知は9月8日となりました。

本年度の事業計画は、この「公募内容」に沿ったもので、「啓発・普及」、「技術力向上対策」、「技術指導」、「調査研究」の4項目について計画されています。この内「調査研究」は、農業集落排水の課題調査に加え、これまで農村総合整備事業で実施した農村公園の施設が、造成後の経過年数や維持管理状態により施設の健全度の差

が生じているものと予想されることから、維持管理状況等についてのアンケート調査を行い、



その結果を分析し、維持管理に関する方向性の検討を行うこととしています。今年の種苗交換会は北秋田市で開催されますが、公募で提案した農業集落排水の役割についての「啓発・普及」の一環として、県と土地連が共同出展する「農業農村整備フェア」の会場に農業集落排水の模型や事業パネルを展示し、来場者に分かりやすく説明する予定です。種苗交換会にお越しの際はぜひ「農業農村整備フェア」に足を運んで下さるようお願い致します。

〔秋田県農村総合整備センター運営委員〕◇  
 運営委員長：三澤敏行（土地連副会長）◇運営委員：保坂龍弥（県農山村振興課長）、高野尚紀（県農山村振興課地域環境保全班長）、猿田明善（県建設交通部下水道課環境保全班長）、津谷永光（北秋田市長）、五十嵐忠悦（横手市長）、黒子高夫（土地連専務理事）、藤原正（土地連技監）

**連 合 会 日 誌**

7月27日	全国農業集落排水事業推進協議会第21回通常総会	東京都
7月27日	「食料基地あきた農業農村整備基本計画《NN基本計画》にかかる意見交換会」	北秋田市
8月5日	用排水施設整備事業促進東北協議会平成22年度定期総会並びに研修会(～6日)	秋田市
8月19日	正副会長会議	本会「役員室」
8月31日	都道府県土地改良事業団体連合会事務責任者会議	東京都
9月2日	平成22年度東北農地・水・環境保全向上対策連絡会議(～3日)	八戸市
9月14日	農地・水・環境保全向上対策第三者検討委員会	横手市
9月16日	東北・北海道土地改良事業団体連合会連絡協議会第2回事務責任者会議(～17日)	北海道
10月7日	東北農業農村整備推進協議会平成22年度担当者研修会	仙台市
10月22日	県営老朽ため池等整備事業土手ヶ沢地区竣工式	羽後町
10月22日	小種地区経営体育成基盤整備事業竣工式	大仙市
..... 今後の行事予定 .....		
10月28日	平成22年度東北・北海道ブロック管理主任者会議並びに土地改良施設管理円滑化事業管理専門指導員会議(～29日)	秋田市
10月30日	第133回秋田県種苗交換会(～11/5)	北秋田市
11月19日	県営里見地区農地集積加速化基盤整備事業竣工式	横手市雄物川町



## 大館市土地改良区合併予備契約調印式

8月20日（金）大館市のホテルクラウンパレス秋北に於いて、大館市内の4土地改良区（大館市下川沿、大館市釈迦内、大館市花矢、大館市）が、大館市土地改良区の設立に向け、合併予備契約調印式が執り行われた。

平成19年12月に地域における土地と水の調整機能を十分に発揮できる組織体の実現を目指し、「長木川水系土地改良区統合整備研究会」を発足されて以来、賦課金の格差問題等、様々な課題があった。

しかし、統合整備による合理的で且つ財政的に安定した、土地改良区運営が必要であるとの強い認識から、それぞれの課題を克服のうえ、「大館市土地改良区統合整備協議会」での統合整備計画等の協議を重ねられた。

調印には、土地改良区役員や市・県の関係者を含めて約80人が出席し、統合整備推進協議会長を務める木村大館市産業部長より「厳しい農業情勢の中、土地改良区の運営基盤強化と経営合理化は不可欠であり、合併を機に農家のための組織として一層農業経営に貢献するよう願う」とあいさつ。4人の理事長と立会人の小畑大館市長が予備契約書に署名し押印した。各土地改良区は10月までに総代会での議決を経て来年1月上旬をめどに県に合併認可を申請する予定。



## 会員だより

### 新理事長就任のお知らせ

- 秋田県能代地区土地改良区（H22.8.5）  
理事長 大塚和雄

### 事務所移転のお知らせ

- 鳥海町上川内堰土地改良区（H22.7.26）  
【新所在地】〒015-0501  
由利本荘市鳥海町伏見字赤渋28-1  
由利本荘市役所鳥海総合支所2階  
TEL.0184-57-2947 FAX.0184-57-2947
- 仙北市黒倉堰土地改良区（H22.8.19）  
【新所在地】〒014-1114  
仙北市田沢湖神代字古館野207-3  
TEL.0187-44-3720 FAX.0187-44-3744
- 仙北市神代土地改良区（H22.8.19）  
【新所在地】〒014-1114  
仙北市田沢湖神代字古館野207-3  
TEL.0187-44-3720 FAX.0187-44-3744

## 本会

### 監事会・理事会・役員会

8月27日、平成22年度第4回監事会・第2回理事会及び第2回役員会を開催。監事会では、平成22年度一般会計収支補正予算（案）が承認されました。その後に開催された理事会では、平成21年度事業報告・一般会計収支決算及び財産目録の案、平成22年度一般会計収支補正予算専決処分がそれぞれ承認されたほか、育児休業及び育児短時間勤務等に関する規程及び介護休業及び介護短時間勤務等に関する規程の一部改正が議決されました。

また、役員会においては、平成22年度秋田県土地改良事業功績者の選考及び平成23年度新規職員の採用について協議され承認されております。

インフォメーション

**平成22年度**

# 秋田県土地改良事業推進大会


— 農業農村整備事業の予算獲得に向けて —

**日時** 平成22年11月2日〔火〕 午後1時00分

**場所** 北秋田市合川体育館（北秋田市李岱下豊田25）

**第133回秋田県種苗交換会**

## 「農業農村整備フェア」を開催します!!



- 期間 平成22年10月30日(土)～11月5日(金) 9:00～16:00
- 場所 協賛第1会場(鷹巣体育館駐車場特設テント)
- 内容 各種パネル展示、体験コーナー、土地改良相談コーナー、カレンダー作成など
- 共催 東北農政局(西奥羽土地改良調査管理事務所・平鹿平野農業水利事業所)、秋田県(農地整備課・農山村振興課・北秋田域振興局農村整備課)、水土里ネット秋田

**野山の花 ダリア(和名:デンジクボタン)**



9月、色とりどりのダリアからお気に入りを見ました。  
(写真提供/真坂千鶴子)

**編集後記**

◆「女心と秋の空」という言葉のように、この時季の天気は変わりやすいものです。昨日の秋晴れがうそのように、朝から雨が降ったかと思えば、太陽が顔を出したりと一日の中でも忙しく変わって行きます。しかし一雨ごとに寒さが増し、秋が深まって来ているのは確かです。秋は、食欲の秋、スポーツの秋とも云われます。プロバスケットボールbjリーグが開幕し、今シーズンから参入した本県初のプロチーム「秋田ノーザンハピネッツ」のデビュー戦が先日行われました。勝利に向けた熱きプレーを期待しながら「秋田県のプロチーム」を応援して行きたいと思います。(広報・渉外班◆嵯峨記)

**表紙写真** 美しく豊かな農村づくり写真コンクール入賞作品「自然乾燥でおいしい米づくり」

※本印刷用紙は、大昭和板紙秋田工場で生産された「地産地消製品」を使用しております。